

京都市
障害児状況シート基本項目集

記載方法と留意点

項目毎に対象児の状況を、
具体的に記載して下さい。

幼保総合支援室

目次

1	項目一覧	0歳児	1
		1・2歳児	2
		3・4・5歳児	3
2	基本項目	記載方法と留意点	
		0歳児	4
		1・2歳児	9
		3・4・5歳児	20

1 項目一覧

0歳児

運動面	<ul style="list-style-type: none">0 首はすわっていない1 首がすわっている（立てて抱いても首がふらふらしない）2 寝返りができる（仰臥位→腹臥位）3 お座りができる（支えなしで10秒以上座れる）4 つかまり立ちができる5 一人で3歩以上歩く
精神面	<ul style="list-style-type: none">0 反応なし1 あやすと顔を見て笑う2 喃語を言う3 人見知りをする4 バイバイと手を振る5 「マンマ」「ブーブー」などの片言を言う
食事	<ul style="list-style-type: none">0 ほとんど飲めない1 飲む力が弱く、上手く飲めない2 しっかり飲める3 離乳食を開始し、食べることができる4 手づかみで食べる5 スプーンを持とうとする
視覚	<ul style="list-style-type: none">0 視覚に問題があるように思われる1 見えている
聴覚	<ul style="list-style-type: none">0 聴こえに問題があるように思われる1 聴こえている
てんかん発作	<ul style="list-style-type: none">0 常時おきる1 月に4～5回2 月に1～2回3 年に5～6回4 服薬により抑止5 服薬の必要なし（てんかんではない）

1・2歳児

運動面	上肢	0 手が使えない	下肢	0 歩けない
		1 物をつかもうとするが、うまくできない		1 一人で歩ける（5歩以上歩ける）
		2 親指と人差し指を向き合わせ、物をつまんで容器に入れる		2 一人で走れる
		3 積み木を2個、積み上げる		3 手すりにつかまって、階段の昇降ができる
		4 なぐり描きをする		4 両足跳びができる
		5 円や直線の模写ができる		5 足を交互に出して階段を上る
言語		0 喃語が出ない 1 喃語がさかん 2 「マンマ」「ブーブー」などの片言を言う（簡単な指示に従う） 3 二語文を言う（「パパ、会社」「ワンワン、来た」など） 4 三語文を言う（会話として通じにくい時もある） 5 簡単な会話ができる		
社会性		0 人に関心を示さない（視線が合わない、表情がない） 1 人への興味はあまりないが、集団の中にはいる 2 自分から他児に興味を示し、中に入っていく 3 大人の援助により、少し集団遊びができる 4 子ども同士追いかけて遊ぶ 5 簡単なおもちゃの貸し借りができる（ルールがわかるようになる）		
設定保育・行事場面		0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く 1 人への関心はないが、物への関心を示すので他児のじゃまをする。部屋から出て行くことが多い 2 人への関心はあまりないが、部屋の中にはいる 3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要 4 集団での指示が理解できず、言語での一对一の対応が必要 5 他の児童と大差はない		
自由遊び場面		0 所外へ飛び出す危険がある 1 常時ついていなければならない 2 常時気を配らなければならない 3 時々声をかけなければならない 4 最初に指示を与える程度で良い 5 他の児童と大差はない		
食事		0 全面介助（自分では食べられない） 1 手づかみで食べる 2 コップで飲む 3 スプーンを持ち、すくって食べようとする 4 スプーンを使用して、一人で食べる 5 はしを使用して、一人で食べる		
排泄		0 おむつを使用（出るのがわからない） 1 尿が出てしまったから知らせる（出たのはわかる） 2 便が出てしまったから知らせる 3 便が出る前に知らせる 4 尿が出る前に知らせる（個別の介助が必要） 5 失敗もあるが、促しや保育の流れで行くことができる（排尿時の介助不要）		
着脱		0 すべて介助（着脱に抵抗する） 1 衣服を着る時、静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない） 2 衣服を着る時、手足を出して協力する（着脱に協力的） 3 一人でパンツ・ズボンが脱げる 4 上着を脱ぐことができる 5 着ようとするが、前後がわからない		
視覚		0 視覚に問題があるように思われる	てんかん発作	0 常時おきる
		1 見えている		1 月に4～5回
				2 月に1～2回
				3 年に5～6回
聴覚		0 聴こえに問題があるように思われる		4 服薬により抑止
		1 聴こえている		5 服薬の必要なし（てんかんではない）

3・4・5歳児

運動面	上肢	0 手が使えない 1 物をつまんで容器に入れる 2 なぐり描きをする 3 クレヨンで○が描ける 4 折り紙を折ることができる（1回折り目をつけられる） 5 ハサミが使える（連続切りができる）	下肢	0 歩けない 1 一人で歩ける 2 一人で走れる 3 両足跳びができる 4 ケンケンができる（片足連続3回以上） 5 スキップができる
	言語	0 話せない（言葉の理解も悪い） 1 話せないが、相手の言う事はわかる 2 単語のみ 3 二語文で話す（「パパ、会社」「ワンワン、来た」など） 4 三語文で話す（助詞、接続詞がまだ使えない） 5 文章で話し、普通に会話ができる		
自己統制	0 全く指示に従えず、目が離せない 1 指示を与えても、ほとんどできない 2 繰り返し指示を与えても、できる時とできない時がある 3 繰り返し指示を与えると、指示どおりできる 4 少しの補足だけで、指示どおりほぼできる 5 指示どおり行動できる			
設定保育・行事場面	0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く 1 人への関心はないが、物への関心を示すので他児のじゃまをする。部屋から出て行くことが多い 2 人への関心はあまりないが、部屋の中にはいる 3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要 4 集団での指示が理解できず、言語での一对一の対応が必要 5 他の児童と大差はない			
自由遊び場面	0 所外へ飛び出す危険がある 1 常時ついていなければならない 2 常時気を配らなければならない 3 時々声をかけなければならない 4 最初に指示を与える程度が良い 5 他の児童と大差はない			
食事	0 全面介助（自分では食べられない） 1 コップで飲む（はし、スプーンは使えない） 2 スプーンを使用して食べる（よくこぼす） 3 スプーンを使用して食べる（おおむね一人で食べる） 4 スプーンかはしを使用して、一人で食べる 5 はしを使用して、一人で食べる			
排泄	0 おむつを使用（出るのがわからない） 1 出てしまってから知らせる（出たのはわかる） 2 便意や尿意を知らせる（出る前にわかる） 3 大便の後始末ができない（自分でトイレに行く） 4 大小便とも自立しているが、時々失敗する（だいたい自立） 5 大小便とも自立している（完全自立）			
着脱	0 すべて介助（着脱に抵抗する） 1 衣服を着る時、静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない） 2 衣服を着る時、手足を出して協力する（着脱に協力的） 3 一人で脱げるが、着ることはできない（自分でしようとする） 4 できる時と、できない時がある（自分ですが、前後がわからない） 5 着脱自由（完全自立）			
視覚	0 全く見えない 1 明るい方に顔を向ける 2 顔前20cm程度で、手の動きがわかる 3 顔前20cm程度で、指の数がわかる 4 2m程度離れた所で、人の区別ができる 5 普通に見える	聴覚	0 耳元で大きな声で話しても、聴こえない 1 大きな声が、やっと聴きとれる 2 普通の声が、やっと聴きとれる 3 普通の声の会話は聴きとれるが、小さい声は聴きとれない 4 小さい声が聴こえたり、聴きとれなかったりする 5 普通に聴こえる	
てんかん発作	0 常時おきる 1 月に4～5回 2 月に1～2回 3 年に5～6回 4 服薬により抑止 5 服薬の必要なし（てんかんではない）			

2 基本項目 記載方法と留意点

0歳児

運動面

- 0 首はすわっていない
- 1 首がすわっている（立てて抱いても首がふらふらしない）
- 2 寝返りができる（仰臥位→腹臥位）
- 3 お座りができる（支えなしで10秒以上座れる）
- 4 つかまり立ちができる
- 5 一人で3歩以上歩く

設問主旨：運動機能（粗大運動）の発達状況を評価する。

0 首はすわっていない

首が全くすわらず、グラグラしている、時々ガクツとなるなど、その状態を具体的に記載する。

1 首がすわっている（立てて抱いても首がふらふらしない）

しっかり正中で支え、前後左右にぐらつかない。身体の軸上に保持している。前後左右に傾けると、頭部を立て直そうとする。状態を具体的に記載する。

2 寝返りができる（仰臥位→腹臥位）

仰臥位から腹臥位に寝返ることができる。どちらの側でも良い。

片方のみの寝返りや腹臥位から仰臥位に寝返るのみなど、その状況も記載する。

3 お座りができる（支えなしで10秒以上座れる）

支えがなくてもまっすぐに座り、10秒以上保持できる。徐々に前傾姿勢になっても良い。

手をついて支えている場合は「できない」とする。

すぐにはいはいをしてしまう場合も、その状況を具体的に記載する。

4 つかまり立ちができる

座位やはいはいの姿勢から前にあるものにつかまって立つ。つかまってから立ち上がれるまでに

時間がかかっても良い。立とうとしてもできず、膝立ち姿勢までの場合は「できない」とし、具体的状況を記載する。

5 一人で3歩以上歩く

3歩以上続けて歩ける。室内、戸外（靴の有無）は問わない。

1・2歩で座り込む、転倒してしまう場合は「できない」とし、その具体的状況を記載する。

0歳児

精神面

- | |
|-----------------------|
| 0 反応なし |
| 1 あやすと顔を見て笑う |
| 2 喃語を言う |
| 3 人見知りをする |
| 4 バイバイと手を振る |
| 5 「マンマ」「ブーブー」などの片言を言う |

設問主旨：対人および言語の発達状況を評価する。

0 反応なし

あやしたり、話しかけたりしても反応がない。または、乏しい。
反応の状況を具体的に記載する。

1 あやすと顔を見て笑う

あやすとそれに反応して微笑む。笑い声をたてなくても良い。
あやされた時の反応を具体的に記載する。

2 喃語を言う

機嫌の良い時、いろいろな声を出す。具体的な状況を記載する。

3 人見知りをする

見慣れない人の顔をじっと見て、表情が変わったり、泣いたりする。
よく知っている人（担当保育士、母親など）と、知らない人の区別がついているようであれば良い。
状況を具体的に記載する。

4 バイバイと手を振る

「バイバイ」と言うと手を振る。他に「イヤイヤ」「アワアワ」など、大人が言う動作をする。
「バイバイ」でなくても良い。状況を具体的に記載する。

5 「マンマ」「ブーブー」などの片言を言う

具体的なものと対応した語が表出している。
「オウム返し」だけの場合や、対応していない言葉である場合は不可とする。
片言の表出状況や内容を具体的に記載する。

0歳児

食事

- | | |
|---|-------------------|
| 0 | ほとんど飲めない |
| 1 | 飲む力が弱く、上手く飲めない |
| 2 | しっかり飲める |
| 3 | 離乳食を開始し、食べることができる |
| 4 | 手づかみで食べる |
| 5 | スプーンを持とうとする |

設問主旨：食事動作の発達状況を評価する。

0 ほとんど飲めない

哺乳瓶から哺乳することができず、経管栄養などを行っている。

原因や具体的状況を記載する。

1 飲む力が弱く、上手く飲めない

哺乳瓶から飲むことはできるが、吸啜力が弱く、哺乳に時間がかかる。

哺乳瓶を嫌がって飲まない場合は含まない。体重増加不良であればその旨を記載する。

2 しっかり飲める

哺乳瓶からあまり時間をかけることなく、飲むことができる。

哺乳瓶は嫌がるが、母乳であればしっかり飲める場合は具体的状況を記載する。

3 離乳食を開始し、食べることができる

ドロドロした食物をスプーンで与えると食べる。離乳食の形態や摂食の様子を具体的に記載する。

嫌がって食べない場合や口からこぼれてしまう場合も、状況を具体的に記載する。

4 手づかみで食べる

食べ物を持って自分で食べる。食べ物を持たせると食べる場合でも良い。

5 スプーンを持とうとする

スプーンを見ると自分で持って食べようとする。食べさせている途中、自分で持とうとする。

スプーンを食事に使う物としての認知ができていれば良い。

スプーンへの興味や、使おうとする様子を具体的に記載する。

0歳児

視覚

- | |
|-------------------|
| 0 視覚に問題があるように思われる |
| 1 見えている |

設問主旨：発達障害等ではなく、視力の程度を評価する。

眼鏡やコンタクトレンズの場合は、装用した状態での視機能を記入する。

0 視覚に問題があるように思われる

保育上どのような介助が必要であるかを記載する。

医療機関への受診があれば、その結果を記載する。

1 見えている

視力に問題なし。

聴覚

- | |
|--------------------|
| 0 聴こえに問題があるように思われる |
| 1 聴こえている |

設問主旨：認知等の問題ではなく、聴力の程度を評価する。

補聴器を使用している場合は、装用した状態での聴能を記入する。

0 聴こえに問題があるように思われる

保育上どのような介助が必要であるかを記載する。

医療機関への受診があれば、その結果を記載する。

1 聴こえている

聴力に問題なし。

0歳児

てんかん発作

- | | |
|---|-------------------|
| 0 | 常時おきる |
| 1 | 月に4～5回 |
| 2 | 月に1～2回 |
| 3 | 年に5～6回 |
| 4 | 服薬により抑止 |
| 5 | 服薬の必要なし（てんかんではない） |

設問主旨：てんかんの有無と発作の頻度や程度を評価する。

0 常時おきる

小さな発作を含め、月に4～5回以上おきる。

どのような発作が、どれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

1 月に4～5回

小さな発作を含め、月に4～5回程度おきる。

どのような発作が、どれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

2 月に1～2回

小さな発作を含め、月に1～2回以上おきる。

どのような発作が、どれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

3 年に5～6回

小さな発作を含め、年に5～6回以上おきる。

どのような発作が、どれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

4 服薬により抑止

自宅または保育園（所）にて服薬することで、発作が抑止されている。

医療機関への受診状況を記載する。

5 服薬の必要なし（てんかんではない）

てんかん発作を起こすことはなく、服薬の必要もない。

1・2歳児

運動面 上肢

- 0 手が使えない
- 1 物をつかもうとするが、うまくできない
- 2 親指と人差し指を向き合わせ、物をつまんで容器に入れる
- 3 積み木を2個、積み上げる
- 4 なぐり描きをする
- 5 円や直線の模写ができる

設問主旨：上肢の巧緻性（微細運動）や道具への興味、使用能力の発達状況を評価する。

0 手が使えない

上肢の麻痺や欠損などにより手が使えない。手の使用に興味がない。
使えない理由や原因、状況について具体的に記載する。

1 物をつかもうとするが、うまくできない

見た物に手を伸ばして手をかけたが、ずり落としてしまう。
手を伸ばしてつかみ、すぐに落としてしまう場合は「できる」とする。つかみ方は問わない。

2 親指と人差し指を向き合わせ、物をつまんで容器に入れる

指が対向しておらず、挟み持ちになっていたり、2指以外（3指持ちなど）の場合や、つまむのみで容器に入れることができない場合は「できない」とし、状況を具体的に記載する。

3 積み木を2個、積み上げる

1つある上に、もう1つを重ねられる。積み木を持ってない、積む意図がない、積み木から手が離れない、積み木を離れた時落ちてしまうは「できない」とし、具体的状況を記載する。また、積み木がなく他の玩具を積む場合も状況を具体的に記載する。

4 なぐり描きをする

筆記具（鉛筆、クレヨン、マジックなど）を紙に打ちつけるだけでなく、筆記具を紙の上に走らせて何かを描く。持ち方は問わない。描かない場合は、描けない状況を具体的に記載する。
例) 筆記具が持てない・なぐり描きに興味がない・打ちつけてしまうなど

5 円や直線の模写ができる

大人が線や円形、またはらせん状の円錐面を描いて見せると、真似して描く。どちらかしかできない時は具体的状況を記載する。自分で好きなように描いており、真似をしない場合は「できない」とし、具体的状況を記載する。

1・2歳児

運動面 下肢

- | |
|-----------------------|
| 0 歩けない |
| 1 一人で歩ける（5歩以上歩ける） |
| 2 一人で走れる |
| 3 手すりにつかまって、階段の昇降ができる |
| 4 両足跳びができる |
| 5 足を交互に出して階段を上る |

設問主旨：移動能力や体のバランスなど、下肢の粗大運動の発達状況を評価する。

装具などを装着している場合は、装着している状態で判断する。

0 歩けない

できない原因や理由、状況について具体的に記載する。

例) 立位保持の有無や、立位での移動状況など

つかまり立ち・つたい歩き・支え歩き（両手・片手）・一人立ち

1 一人で歩ける（5歩以上歩ける）

5歩程度、続けて歩ける。室内、戸外（靴の有無）は問わない。

2・3歩で座り込む、転倒してしまう場合は「できない」とする。具体的状況を記載する。

2 一人で走れる

足元がかなりしっかりして、走ることができれば「できる」とする。速度が遅くても良い。

できない場合は、具体的状況を記載する。

3 手すりにつかまって、階段の昇降ができる

手すりにつかまったり、片手をひいたりすれば、階段を上り降りすることができる。

具体的状況を記載する。

4 両足跳びができる

その場で両足跳びができる。この時、足がそろわなかったり、少しどちらかの足が遅れたりしていても良い。具体的状況を記載する。

5 足を交互に出して階段を上る

手すりなどにつかまらず、交互に足を出し、各段を片足で踏んで階段を上れる。

上ることができれば良い。階段は、保育園（所）で通常利用している高さ程度のものであるとする。

具体的状況を記載する。

1・2歳児

言語

- 0 喃語が出ない
- 1 喃語がさかん
- 2 「マンマ」「ブーブー」などの片言を言う（簡単な指示に従う）
- 3 二語文を言う（「パパ、会社」「ワンワン、来た」）など
- 4 三語文を言う（会話として通じにくい時もある）
- 5 簡単な会話ができる

設問主旨：言語による意志疎通・コミュニケーション能力を評価する。

0 喃語が出ない

発声そのものがないのか、喃語になっていないのか、頻度が少ないか、理解はどの程度できているか、その他具体的状況を記載する。

1 喃語がさかん

自発的に「マンマンマン…」などと言う。

表出している喃語や、表出している場面などを具体的に記載する。

2 「マンマ」「ブーブー」などの片言を言う（簡単な指示に従う）

具体的なものと対応した語がはっきりと結びついていること（3語以上）。「オウム返し」は不可。

または、はっきりとした単語は出ていなくても「～持っていらっしやい」「～にあげなさい」

などの簡単な言いつけを理解し、言われた通りにできれば良い。

具体的状況を記載する。

3 二語文を言う（「パパ、会社」「ワンワン、来た」など）

一語文の段階を過ぎて単語を2つ、つなげて話す。

パターンでしか話さない、発音不明瞭、独特な話し方をするなど、具体的状況を記載する。

4 三語文を言う（会話として通じにくい時もある）

会話としては通じにくいこともあるが、やりとりをしようとしている。

接続詞が使えない、パターンでしか話さない、発音不明瞭、独特な話し方をするなど、

具体的状況を記載する。

5 簡単な会話ができる

一方的ではなく、簡単な会話でのやりとりができる。具体的状況を記載する。

1・2歳児

社会性

- 0 人に関心を示さない（視線が合わない、表情がない）
- 1 人への興味はあまりないが、集団の中にはいる
- 2 自分から他児に興味を示し、中に入っていく
- 3 大人の援助により、少し集団遊びができる
- 4 子ども同士追いかけてっこをして遊ぶ
- 5 簡単なおもちゃの貸し借りができる（ルールがわかるようになる）

設問主旨：人への関心の有無や程度を評価する。

集団活動への参加状況を評価する。

- 0 人に関心を示さない（視線が合わない、表情がない）

話しかけても目が合わない、反応がないなど具体的状況を記載する。
- 1 人への興味はあまりないが、集団の中にはいる
設定保育に参加できるか、他児との関わりがあるかどうかは別として、その場にいることができる。具体的状況を記載する。
- 2 自分から他児に興味を示し、中に入っていく
他児に興味をもって、自分から近づいて行くことがある。
他児への興味の様子や関わり方など、具体的状況を記載する。
- 3 大人の援助により、少し集団遊びができる
保育士が入ることで、少しの間他児と遊ぶことができる。
遊びの内容や保育士の支援など、具体的状況を記載する。
- 4 子ども同士追いかけてっこをして遊ぶ
子ども同士で遊ぶことが見られる。追いかけてっこでなくても良い。
遊んでいる状況を具体的に記載する。
- 5 簡単なおもちゃの貸し借りができる（ルールがわかるようになる）
他児とのやりとりができるようになってきている。
具体的状況を記載する。

1・2歳児

設定保育・行事場面

- 0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く
- 1 人への関心はないが、物への関心を示すので他児のじゃまをする。部屋から出て行くことが多い
- 2 人への関心はあまりないが、部屋の中にはいる
- 3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要
- 4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要
- 5 他の児童と大差はない

設問主旨：集団保育での行動および対人関係の発達状況、保育における困難性を評価する。

自力での移動が困難な場合は、他者への関心や指示の理解状況で判断する。

日によって状況が異なる場合は、頻度の多い状況を選択し、その旨を記載する。

0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く

大人・子どもに関心がなく、遊びの内容や玩具などにも興味を示すことがない。

いつでも部屋の外に出てしまう。関心の状況や部屋から出て行く頻度など、具体的状況を記載する。

1 人への関心はないが、物への関心を示すので他児のじゃまをする。部屋から出て行くことが多い

人への関心がなく、一緒に行動することは意識していないが、持っている物には興味を示し、取り上げようとするなど他児のじゃまをする。働きかけをしても、頻回に保育室から出て行ってしまふ。具体的な状況や頻度、働きかけの内容などを記載する。

2 人への関心はあまりないが、部屋の中にはいる

人に関心をあまり示さないものの、働きかけをすれば部屋の中に入ることができる。

具体的な状況や働きかけの内容などを記載する。

3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要

言語の指示のみでは理解ができないため、大人が一対一で一緒にすることが必要である。

指示内容やどの程度一緒にすることでできるか、具体的に記載する。

4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要

一対一であれば言語での指示を理解できる。

指示内容やどの程度の言語指示でできるか、具体的に記載する。

5 他の児童と大差はない

集団の指示でほぼ活動できる。何らかの支援が必要な場合は具体的に記載する。

1・2歳児

自由遊び場面

- 0 所外へ飛び出す危険がある
- 1 常時ついていなければならない
- 2 常時気を配らなければならない
- 3 時々声をかけなければならない
- 4 最初に指示を与える程度が良い
- 5 他の児童と大差はない

設問主旨：自由遊び場面での保育の困難性を評価する。

自力での移動が困難な場合は、危険性の程度で判断する。

日によって状況が異なる場合は、頻度の多い状況を選択しその旨を記載する。

0 所外へ飛び出す危険がある

所外へ出ないような工夫をしても、自分で鍵を開ける、柵を乗り越えて出て行こうとする。自力移動できない場合はこの項目は当てはまらない。頻度や状況について具体的に記載する。

1 常時ついていなければならない

他児に危害を加えるため、また反対に他児からの危害を加えられた場合など自分で身を守ることができないため、自由遊び場面では、常時保育士が傍らに付き添っている。具体的な状況や保育士が傍らに付き添う必要性について、具体的に記載する。

2 常時気を配らなければならない

遊びなどの活動に興味がなく、目的もなくウロウロしている時間が大半で、いつも遊びに誘ったり、興味のあることを提示することが必要である。頻度や具体的な支援の状況を記載する。

3 時々声をかけなければならない

遊びが長続きせず、次々と興味が移ってしまい遊びこめないため、声をかけて遊びの幅を広げる必要がある。実際に行っている支援の頻度や内容を具体的に記載する。

4 最初に指示を与える程度が良い

自由遊びのスケジュールや注意について、個別に指示を与えれば理解することができる。他児の様子を見て動いたり、一緒に遊ぶことができる。指示の内容や遊んでいる様子、他児よりも指示が必要な状況を具体的に記載する。

5 他の児童と大差はない

ほぼ他児と同じように活動ができる。何らかの支援が必要な場合は具体的に記載する。

1・2歳児

食事

- 0 全面介助（自分では食べられない）
- 1 手づかみで食べる
- 2 コップで飲む
- 3 スプーンを持ち、すくって食べようとする
- 4 スプーンを使用して、一人で食べる
- 5 はしを使用して、一人で食べる

設問主旨：食事の自立程度と介助の必要性、手の巧緻性、手と口の協応運動を評価する。

0 全面介助（自分では食べられない）

手でつかむことはできても口へは持っていけない、食べ物の認識がない、身体的に不自由な場合など、具体的状況を記載する。

1 手づかみで食べる

手に持って食べることができる。こぼすことが多くても、食べようとしていれば良い。

食べ物への興味やどのようなものを手づかみで食べるのかなど、食事動作を具体的に記載する。

2 コップで飲む

大人が手を添えてコップから飲むことができれば良い。

こぼすことが多かったり、むせたりして飲めない場合などは「できない」とし、その具体的状況を記載する。

3 スプーンを持ち、すくって食べようとする

自分で食べようとして、スプーンですくって口に持っていきこうとしていれば良い。

スプーンの道具としての理解・使用の意欲に重点をおいており、確実にすくって食べられるかは問わない。道具を使うことへの理解や意欲、動作などを記載する。

4 スプーンを使用して、一人で食べる

スプーンを使用し、食べられていれば良い。持ち方は問わない。

すくうことはできるが、こぼすことが多く大半を介助している場合は「できない」とし、その具体的状況も記載する。

5 はしを使用して、一人で食べる

持ち方や使い方は問わない。時々手伝いを必要とする程度で食べられるようであれば良い。手伝いの程度や頻度を記載する。

1・2歳児

排泄

- | |
|--------------------------------------|
| 0 おむつを使用（出るのがわからない） |
| 1 尿が出てしまったから知らせる（出たのはわかる） |
| 2 便が出てしまったから知らせる |
| 3 便が出る前に知らせる |
| 4 尿が出る前に知らせる（個別の介助が必要） |
| 5 失敗もあるが、促しや保育の流れで行くことができる（排尿時の介助不要） |

設問主旨：日常生活の自立（排泄）の程度と、介助の必要性を評価する。

0 おむつを使用（出るのがわからない）

おむつが濡れていても特に気にすることなく遊んでいる、以前は知らせていたが、知らせなくなったなど、具体的状況を記載する。

1 尿が出てしまったから知らせる（出たのはわかる）

方法は問わないが、不快な気持ちが伝えられる。確実に知らせなくても良い。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答える、出た時の様子からわかるなど、具体的状況や頻度を記載する。

2 便が出てしまったから知らせる

方法は問わないが、不快な気持ちが伝えられる。確実に知らせなくても良い。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答える、出た時の様子からわかるなど、具体的状況や頻度を記載する。

3 便が出る前に知らせる

言葉や動作などの方法は問わず、ほとんど教えるが、たまに失敗する程度。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答えるなど、具体的状況を記載する。

4 尿が出る前に知らせる（個別の介助が必要）

ほとんど昼間は失敗なく知らせることができる。おむつ交換やトイレで排尿時に介助は必要。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答えるなど、具体的状況を記載する。

5 失敗もあるが、促しや保育の流れで行くことができる（排尿時の介助不要）

促しや保育の流れでトイレに行き、排尿の後始末ができる。間に合わない場合もあるが、自分でトイレに行くこともある。失敗の頻度や状況を具体的に記載する。

1・2歳児

着脱

- 0 すべて介助（着脱に抵抗する）
- 1 衣服を着る時、静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）
- 2 衣服を着る時、手足を出して協力する（着脱に協力的）
- 3 一人でパンツ・ズボンは脱げる
- 4 上着を脱ぐことができる
- 5 着ようとするが、前後がわからない

設問主旨：日常生活の自立（着脱）の程度と、介助の必要性を評価する。

0 すべて介助（着脱に抵抗する）

介助方法を具体的に記載。

1 衣服を着る時、静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）

してもらうのが当たり前で、自分からしようとする意欲はまだない状態。

具体的状況を記載する。

2 衣服を着る時、手足を出して協力する（着脱に協力的）

着替えることがわかっており、着脱しやすくなるように協力する。

帽子を一人をかぶる、洋服のスナップをはずすなど、自分でできることがあれば具体的状況を記載する。

どのような部分に介助を要するかなど、具体的状況を記載する。

3 一人でパンツ・ズボンは脱げる

一人でできない場合は、介助の程度を記載する。

4 上着を脱ぐことができる

ボタンやファスナーなどはできなくても良いが、ジャンパーなどを自分で脱ぐことができる。

5 着ようとするが、前後がわからない

一人で着ようとしていれば良い。

1・2歳児

視覚

- 0 視覚に問題があるように思われる
- 1 見えている

設問主旨：発達障害等ではなく、視力の程度を評価する。

眼鏡やコンタクトレンズの場合は、装着した状態での視機能を記入する。

0 視覚に問題があるように思われる

保育上どのような介助が必要であるかを記載する。

医療機関への受診があれば、その結果を記載する。

1 見えている

視力に問題なし。

聴覚

- 0 聴こえに問題があるように思われる
- 1 聴こえている

設問主旨：認知等の問題ではなく、聴力の程度を評価する。

補聴器を使用している場合は、装着した状態での聴能を記入する。

0 聴こえに問題があるように思われる

保育上どのような介助が必要であるかを記載する。

医療機関への受診があれば、その結果を記載する。

1 聴こえている

聴力に問題なし。

1・2歳児

てんかん発作

- 0 常時おきる
- 1 月に4～5回
- 2 月に1～2回
- 3 年に5～6回
- 4 服薬により抑止
- 5 服薬の必要なし（てんかんではない）

設問主旨：てんかんの有無と発作の頻度や程度を評価する。

0 常時おきる

小さな発作を含め、月に4～5回以上おきる。
どのような発作が、どれくらいの頻度で起こるかを記載する。
医療機関への受診状況を記載する。

1 月に4～5回

小さな発作を含め、月に4～5回程度おきる。
どのような発作が、どれくらいの頻度で起こるかを記載する。
医療機関への受診状況を記載する。

2 月に1～2回

小さな発作を含め、月に1～2回以上おきる。
どのような発作が、どれくらいの頻度で起こるかを記載する。
医療機関への受診状況を記載する。

3 年に5～6回

小さな発作を含め、年に5～6回以上おきる。
どのような発作が、どれくらいの頻度で起こるかを記載する。
医療機関への受診状況を記載する。

4 服薬により抑止

自宅または保育園（所）にて服薬することで、発作が抑止されている。
医療機関への受診状況を記載する。

5 服薬の必要なし（てんかんではない）

てんかん発作を起こすことはなく、服薬の必要もない。

3・4・5歳児

運動面 上肢

- 0 手が使えない
- 1 物をつまんで容器に入れる
- 2 なぐり描きをする
- 3 クレヨンで○が描ける
- 4 折り紙を折ることができる（1回折り目をつけられる）
- 5 ハサミが使える（連続切りができる）

設問主旨：上肢の巧緻性（微細運動）や道具への興味、使用能力の発達状況を評価する。

0 手が使えない

上肢の麻痺や欠損などにより手が使えない。手の使用に興味がない。
使えない理由や原因、状況について具体的に記載する。

1 物をつまんで容器に入れる

持ち方が挟み持ちになっていたり、2指以外（3指持ちなど）の場合やつまむことはできるが、容器に入れることができない場合は、状況を具体的に記載する。

2 なぐり描きをする

筆記具（鉛筆、クレヨン、マジックなど）を紙に打ちつけるだけでなく、筆記具を紙の上に走らせて何かを描く。持ち方は問わない。描かない場合は、描けない状況を具体的に記載する。
例) 筆記具が持てない・なぐり描きに興味がない・打ちつけてしまうなど

3 クレヨンで○が描ける

ぐるぐると連続しないで、丸みをもった円を描ける。1つの円であれば、始点と末端がやや交差しても良い。描けない場合は、描画の状況や興味を具体的に記載する。

4 折り紙を折ることができる（1回折り目をつけられる）

折り紙を折って見せると同じように折り目をつけて折る。できる折り紙を具体的に記載する。
例) 四角を半分に折ることができる。飛行機を折ることができるなど
できない時や折り紙に興味がなく取り組めない時は、その状況を記載する。

5 ハサミが使える（連続切りができる）

ハサミで紙などが連続して切れる。1つの形を切り抜けなくても良い。
できない時は、具体的状況を記載する。

3・4・5歳児

運動面 下肢

- | | |
|---|--------------------|
| 0 | 歩けない |
| 1 | 一人で歩ける |
| 2 | 一人で走れる |
| 3 | 両足跳びができる |
| 4 | ケンケンができる（片足連続3回以上） |
| 5 | スキップができる |

設問主旨：移動能力や体のバランスなど、下肢の粗大運動の発達状況を評価する。

装具などを装着している場合は、装着している状態で判断する。

0 歩けない

できない原因や理由、状況について具体的に記載する。

例) 立位保持の有無や立位での移動状況（つかまり立ち・つたい歩き・支え歩き（両手・片手）・一人立ち・一人で2・3歩は前進しているなど）

1 一人で歩ける

一人で続けて歩ける。室内、戸外（靴の有無）は問わない。

数歩ですぐ休み、歩き続けられない場合やすぐに転倒してしまう場合は「できない」とし、具体的状況を記載する。0 脚など歩容に問題があり受診している場合や、装具を付けている場合も具体的状況を記載する。

2 一人で走れる

足元がかなりしっかりして、走ることができれば「できる」とする。速度が遅くても良い。できない場合は、具体的状況を記載する。

3 両足跳びができる

その場で両足跳びができる。この時、足がそろわなかったり、少しどちらかの足が遅れていても良い。できない場合は、状況を具体的に記載する。

4 ケンケンができる（片足連続3回以上）

片足立ちで3回以上跳ぶことができる。どちらかの足でできれば良い。

1・2回で両足がついてしまう場合は「できない」とし、状況を具体的に記載する。

5 スキップができる

体のバランスを取りながら、リズムカルにスキップができる。

上手にできない場合は、状況を具体的に記載する。

3・4・5歳児

言語

- | | |
|---|----------------------------|
| 0 | 話せない（言葉の理解も悪い） |
| 1 | 話せないが、相手の言う事はわかる |
| 2 | 単語のみ |
| 3 | 二語文で話す（「パパ、会社」「ワンワン、来た」など） |
| 4 | 三語文で話す但助詞、接続詞がまだ使えない |
| 5 | 文章で話し、普通に会話ができる |

設問主旨：理解の程度、言語によるコミュニケーション能力の発達を評価する。

0 話せない（言葉の理解も悪い）

声を発することはあるが、言葉の理解も悪い。

1 話せないが、相手の言う事はわかる

理解は悪くないが、話せない。

「オウム返し」は不可。

「～持っているじゃない」「～にあげなさい」などの簡単な言いつけを理解し、言われた通りにできるなど、理解の程度を具体的に記載する。

2 単語のみ

具体的なものと対応した語が、3語以上出ている。

3 二語文で話す（「パパ、会社」「ワンワン、来た」など）

一語文の段階を過ぎて、単語を2つ、つなげて話す。

理解が悪い、パターンでしか話さない、発音不明瞭、独特な話し方をするなど、具体的状況を記載する。

4 三語文で話す但助詞、接続詞がまだ使えない

簡単な質問に応じたり、会話ができる。

一方的に話す、発音不明瞭、特徴のある話し方をするなどの場合、具体的状況を記載する。

5 文章で話し、普通に会話ができる

助詞も入れて会話ができる。

一方的に話すなどの場合、具体的状況を記載する。

3・4・5歳児

自己統制

- 0 全く指示に従えず、目が離せない
- 1 指示を与えても、ほとんどできない
- 2 繰り返し指示を与えても、できる時とできない時がある
- 3 繰り返し指示を与えると、指示どおりできる
- 4 少しの補足だけで、指示どおりほぼできる
- 5 指示どおり行動できる

設問主旨：指示を理解し、従う事ができるかを評価する。

未歩行などで自力移動のできない場合は、指示の理解程度により判断する。

0 全く指示に従えず、目が離せない

児童に応じた伝え方をしても指示が入らず、危険なことをしたり、保育室から出て行ってしまう、集団保育が困難で常時保育士がついていなければならないなど、具体的状況を記載する。

1 指示を与えても、ほとんどできない

伝え方を工夫しても指示が理解できずにほとんど行動できない、こだわりがあるなど、具体的状況を記載する。

2 繰り返し指示を与えても、できる時とできない時がある

1つの指示を出して、それに従うことができれば良い。

伝え方を工夫し繰り返し指示を与えても、行動ができたりできなかったりする、切り替えに時間がかかる、最後までできないなど、具体的状況を記載する。

3 繰り返し指示を与えると、指示どおりできる

1つの指示を出して、それに従うことができれば良い。

伝え方を工夫し、繰り返し指示を与えると指示どおりできるなど、具体的状況を記載する。

4 少しの補足だけで、指示どおりほぼできる

集団での指示の後に少し個別に指示することで、ほぼ指示どおりできる。

他児を見て自分で動くことができる、自信がなくてできない場合など、具体的状況を記載する。

5 指示どおり行動できる

指示を出すと、その通りに行動できる。

集団での指示に従うことができる。

3・4・5歳児

設定保育・行事場面

- 0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く
- 1 人への関心はないが、物への関心を示すので他児のじゃまをする。部屋から出て行くことが多い
- 2 人への関心はあまりないが、部屋の中にはいる
- 3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要
- 4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要
- 5 他の児童と大差はない

設問主旨：集団保育での行動および対人関係の発達状況、保育における困難性を評価する。

自力での移動が困難な場合は、他者への関心や指示の理解状況で判断する。

日によって状況が異なる場合は、頻度の多い状況を選択し、その旨を記載する。

0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く

大人、子どもに関心がなく、遊びの内容や玩具などにも興味を示すことがない。

いつでも部屋の外に出てしまう。関心の状況や部屋から出て行く頻度など具体的状況を記載する。

1 人への関心はないが、物への関心を示すので他児のじゃまをする。部屋から出て行くことが多い

人への関心が全くなく、一緒に行動することを意識していないが、持っている物には興味を示し、取り上げようとするなど他児のじゃまをする。働きかけをしても、頻回に保育室から出て行ってしまふ。具体的な状況や頻度、働きかけの内容などを記載する。

2 人への関心はあまりないが、部屋の中にはいる

人に関心をあまり示さないものの、働きかけをすれば部屋の中に入ることができる。

具体的な状況や働きかけの内容などを記載する。

3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要

言語の指示のみでは理解できないため、大人が一対一で一緒にすることが必要である。

指示内容やどの程度一緒にすることでできるか、具体的に記載する。

4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要

一対一であれば言語での指示を理解できる。

指示内容やどの程度の言語指示でできるか、具体的に記載する。

5 他の児童と大差はない

集団の指示でほぼ活動できる。

何らかの支援が必要な場合は具体的に記載する。

3・4・5歳児

自由遊び場面

- 0 所外へ飛び出す危険がある
- 1 常時ついていなければならない
- 2 常時気を配らなければならない
- 3 時々声をかけなければならない
- 4 最初に指示を与える程度が良い
- 5 他の児童と大差はない

設問主旨：自由遊び場面での保育の困難性を評価する。

自力での移動が困難な場合は、危険性の程度で判断する。

日によって状況が異なる場合は、頻度の多い状況を選択しその旨を記載する。

0 所外へ飛び出す危険がある

所外へ出ないような工夫をしても、自分で鍵を開ける、柵を乗り越えて出て行こうとする。自力移動できない場合はこの項目は当てはまらない。頻度や状況について具体的に記載する。

1 常時ついていなければならない

他児に危害を加えるため、また反対に他児からの危害を加えられた場合など自分で身を守ることができないため、自由遊び場面では、常時保育士が傍らに付き添っている。具体的な状況や保育士が傍らに付き添う必要性について、具体的に記載する。

2 常時気を配らなければならない

遊びなどの活動に興味がなく、目的もなくウロウロしている時間が大半で、いつも遊びに誘ったり、興味のあることを提示することが必要である。頻度や具体的な支援の状況を記載する。

3 時々声をかけなければならない

遊びが長続きせず、次々と興味が移ってしまい遊び込めないため、声をかけて遊びの幅を広げる必要がある。実際に行っている支援の頻度や内容を具体的に記載する。

4 最初に指示を与える程度が良い

自由遊びのスケジュールや注意について、個別に指示を与えれば理解することができる。他児の様子をみて動いたり、一緒に遊ぶことができる。指示の内容や遊んでいる様子、他児よりも指示の必要な状況を具体的に記載する。

5 他の児童と大差はない

ほぼ他児と同じように活動できる。何らかの支援が必要な場合は具体的に記載する。

3・4・5歳児

食事

- | |
|----------------------------|
| 0 全面介助（自分では食べられない） |
| 1 コップで飲む（はし、スプーンは使えない） |
| 2 スプーンを使用して食べる（よくこぼす） |
| 3 スプーンを使用して食べる（おおむね一人で食べる） |
| 4 スプーンかはしを使用して、一人で食べる |
| 5 はしを使用して、一人で食べる |

設問主旨：日常生活の自立（食事）の程度と介助の必要性を評価する。
上肢（特に手指）の機能をみる。

0 全面介助（自分では食べられない）

1 コップで飲む（はし、スプーンは使えない）

コップを使って自分で飲むことができる。
あまりに多くこぼす場合は「できない」とする。

2 スプーンを使用して食べる（よくこぼす）

スプーンを使って自分で食べられるがこぼすため、傍らで介助を要する。
スプーンの持ち方は問わない。
あまりに多くこぼし、食べられていない場合は「できない」とする。

3 スプーンを使用して食べる（おおむね一人で食べる）

あまりこぼさず、一対一の介助を必要としない。
スプーンの持ち方は問わない。

4 スプーンかはしを使用して、一人で食べる

介助がなくても一人で食事ができる。使用する道具の種類や持ち方は問わない。
途中で遊び食べ、手づかみになるなど、具体的状況を記載する。

5 はしを使用して、一人で食べる

はしを使って食べることができ、一人で食べ終わることができる。
はしは正しい持ち方でなくてもかまわない。

3・4・5歳児

排泄

- 0 おむつを使用（出るのがわからない）
- 1 出た後から知らせる（出たのはわかる）
- 2 便意や尿意を知らせる（出る前にわかる）
- 3 大便の後始末ができない（自分でトイレに行く）
- 4 大小便とも自立しているが、時々失敗する（だいたい自立）
- 5 大小便とも自立している（完全自立）

設問主旨：日常生活の自立（排泄）の程度と、介助の必要性を評価する。

0 おむつを使用（出るのがわからない）

おむつが濡れていても気にせず遊んでいる。

1 出た後から知らせる（出たのはわかる）

尿や便が出てから知らせる。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答える、出たのはわかっているが知らせないなど、具体的状況や頻度を記載する。

2 便意や尿意を知らせる（出る前にわかる）

出る前に知らせるが、一人ではトイレに行けず、保育士の付添いが必要である。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答える、出る前にわかっているようであるが知らせないなど、具体的状況や失敗する場合は頻度を記載する。

3 大便の後始末ができない（自分でトイレに行く）

自分でトイレに行き排尿をすることはできるが、便の後始末ができない、または不完全で介助が必要な場合は介助の内容などを具体的に記載する。

4 大小便とも自立しているが、時々失敗する（だいたい自立）

ほとんど自立しているが、遊びに夢中になっている、午睡中の失敗があるなど、失敗の状況や頻度を具体的に記載する。

5 大小便とも自立している（完全自立）

自分でトイレに行き、保育士の介助を必要としない。

3・4・5歳児

着脱

- 0 すべて介助（着脱に抵抗する）
- 1 衣類を着る時、静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）
- 2 衣類を着る時、手足を出して協力する（着脱に協力的）
- 3 一人で脱げるが、着ることはできない（自分でしようとする）
- 4 できる時と、できない時がある（自分ですが、前後がわからない）
- 5 着脱自由（完全自立）

設問主旨：日常生活の自立（着脱）の程度と介助の必要性を評価する。
身体機能を見る。

0 すべて介助（着脱に抵抗する）

ウロウロしてしまい、着替えさせようとしめないなど、具体的状況を記載する。

1 衣類を着る時、静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）

してもらうのが当たり前で、自分からしようとする意欲がない状態。
具体的状況を記載する。

2 衣類を着る時、手足を出して協力する（着脱に協力的）

着替えることがわかっており、着脱しやすくなるように協力する。
帽子を一人でかぶる、洋服のスナップをはずすなど、自分でできることがあれば具体的状況を記載する。
どのような部分に介助を要するかなど、具体的状況を記載する。

3 一人で脱げるが、着ることはできない（自分でしようとする）

自分で着ようとする意欲が出てきているが、介助が必要な段階である。
自分で着ようとする具体的状況があれば記載する。

4 できる時と、できない時がある（自分ですが、前後がわからない）

自分で着脱するが、前後が間違っていることが多い。
どのような場合にできて、どのような場合にできないか、具体的に記載する。

5 着脱自由（完全自立）

自分で着脱ができ、保育士の介助を必要としない。

3・4・5歳児

視覚

- | |
|----------------------|
| 0 全く見えない |
| 1 明るい方に顔を向ける |
| 2 顔前20cm程度で、手の動きがわかる |
| 3 顔前20cm程度で、指の数がわかる |
| 4 2m程度離れた所で、人の区別ができる |
| 5 普通に見える |

設問主旨：発達障害等によるものではなく、視力の程度を評価する。

眼鏡やコンタクトレンズの場合は、装用した状態での視機能を記入する。

0 全く見えない

1 明るい方に顔を向ける

窓の方に顔を向けるなど、具体的状況を記載する。

2 顔前20cm程度で、手の動きがわかる

顔の前から約20cm離れた所で手を動かすと、それに何らかの反応を示す。

3 顔前20cm程度で、指の数がわかる

顔の前から約20cm離れた所で、指で示した数がわかる。

4 2m程度離れた所で、人の区別ができる

迎えに来た保護者や近づいて来た保育士に気付いて、何らかの反応を示す。

5 普通に見える

視力に問題なし。

3・4・5歳児

聴覚

- | | |
|---|----------------------------|
| 0 | 耳元で大きな声で話しても、聴こえない |
| 1 | 大きな声が、やっと聴きとれる |
| 2 | 普通の声が、やっと聴きとれる |
| 3 | 普通の声の会話は聴きとれるが、小さい声は聴きとれない |
| 4 | 小さい声が聴こえたり、聴きとれなかったりする |
| 5 | 普通に聴こえる |

設問主旨：認知等の問題ではなく、聴力の程度を評価する。

補聴器を使用している場合は、装用した状態での聴能を記入する。

0 耳元で大きな声で話しても、聴こえない

耳元で名前を呼んでも、全く反応がない。

1 大きな声が、やっと聴きとれる

近くで大きな声で話すと、何らかの反応を示す。

どのような場面であれば聴きとれるのか、具体的状況を記載する。

2 普通の声が、やっと聴きとれる

普通に話している声に反応する。

3 普通の声の会話は聴きとれるが、小さい声は聴きとれない

何かに夢中になっている時に呼びかけても反応がない、とは異なる。

4 小さい声が聴こえたり、聴きとれなかったりする

夢中になっていると気付きにくい場合もあるが、保育士から普段の様子も聴取しながら判断する。

5 普通に聴こえる

聴力に問題なし。

3・4・5歳児

てんかん発作

- | |
|---------------------|
| 0 常時おきる |
| 1 月に4～5回 |
| 2 月に1～2回 |
| 3 年に5～6回 |
| 4 服薬により抑止 |
| 5 服薬の必要なし（てんかんではない） |

設問主旨：てんかんの有無と発作の頻度や程度を評価する。

0 常時おきる

小さな発作を含め、月に4～5回以上おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

1 月に4～5回

小さな発作を含め、月に4～5回程度おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

2 月に1～2回

小さな発作を含め、月に1～2回以上おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

3 年に5～6回

小さな発作を含め、年に5～6回以上おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

4 服薬により抑止

自宅または保育園（所）にて服薬することで、発作が抑止されている。

医療機関への受診状況を記載する。

5 服薬の必要なし（てんかんではない）

てんかん発作を起こすことはなく、服薬の必要もない。